

20年前のバブル時代のスローガンではない。最近の話である。英誌の調査部門「エコノミスト・インテリジェンス・ユニット」(EIU) のレポートだ。実は日本企業による外国企業の買収が2011年、過去最高額に達し、その規模は驚くなかれ、三菱地所がロックフェラーセンターを買収して大騒ぎになったバブル時代の3倍ほどにもなり、今年もその勢いが止まらない。

武田薬品によるスイス製薬会社「ナイコメッド」買収(約1兆1千億円)、丸紅による米穀物メジャー第3位「ガビロン」買収(約2900億円)、旭化成による米救命救急医療機器メーカー、ゾール・メディカル買収(1746億円)、キリンビールによるブラジル第2位のビール大手「スキンカリオール・グループ」買収(約2000億円)や、変わったところでは、“キティちゃん”で有名なサンリオが英メディア関連「コリオン」の「ミスターメン・アンド・リトルミス」ブランド買収(推定30億円)、おもちゃのタカラトミーが「機関車トーマス」で有名な米玩具大手「RC2」買収(約530億円)などなど枚挙にいとまがない。

理由はもちろん円高を追い風にした海外攻勢だ。国内では円高不況だ、損だ、苦しいと言っても海外では“ストロング Yen”のジャパンなのだ。聖書曰く、

「主は、弱い者をちりから起こし、貧しい人を、あくたから引き上げ、高貴な者とともに、すわらせ、彼らに栄光の位を継がせます。まことに、地の柱は主のもの、その上に主は世界を据えられました。」

I サムエル記 2 章 8 節。

強い者が勝つのは当たり前だが、“主”であるイエス・キリストはいつでも弱い者を立ち上がらせてくださる。震災、円高、中国情勢と八方塞がりの今の日本が円高を逆手に取って打って出るのを見る時、今こそイエスによる復活の力で立ち上がることを願って止まない。

